

# 令和5年度第1回春日井市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和6年1月26日（金）午前9時30分～午前10時25分

2 開催場所 春日井市役所南館4階 第3委員会室

3 出席者

【市長】 石黒 直樹

【教育長】 水田 博和

【教育委員会委員】 向 文緒

【教育委員会委員】 竹田 卓弘

【教育委員会委員】 浅井 敦臣

【教育委員会委員】 河合 香吏

【事務局】 教育部長	西野 正康
教育総務課長	中山 一徳
同 課長補佐	田之上 愛子
同 担当主査	加藤 恵子
同 主任	倉知 美香
学校教育課長	大城 達也
同 主幹	加藤 喜英
同 課長補佐	梶原 和行
同 課長補佐	山崎 俊介

4 協議事項

(1) 郷土愛を育むための春日井市独自の教育について

5 会議資料

資料1 春日井市総合教育会議名簿

資料2 郷土愛を育むための春日井市独自の教育について

資料3 道徳教科書

資料4 社会科副読本 「わたしたちのまち 春日井」「わたしたちの春日井」

※資料3、4は著作権の都合により掲載しておりません。

6 議事内容

部長

本日の傍聴者は1名です。(以後の進行は市長へ)

市長

春日井市総合教育会議会議要綱第4条第2項の規定により、議事録

署名人については、水田教育長を指定。

#### 協議事項

##### (1) 郷土愛を育むための春日井市独自の教育について

###### ア 学校教育における郷土愛教育の位置づけ、現状について

学校教育課長

資料2をご覧ください。教育基本法第2条第5号におきまして、教育の目標として、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度の育成」が掲げられています。これを受け、学習指導要領に具体的な育成目標が記載されています。その中心的な教科となるものが、特別な教科「道徳」です。道徳の小学校学習指導要領には、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の育成が掲げられており、この態度を低学年から高学年にかけて段階的に育成するために、各学年における指導要点が次のようにまとめられています。低学年の1・2年生時には「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと」、中学年の3・4年生時には「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと」、高学年の5・6年生時には「我が国や郷土の伝統と文化を大切に育んできた先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」となっています。

小学校で学んだこれらの態度を土台にして、中学校では、「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度」の育成を進めています。

このような郷土愛を育成するために、現在使用している道徳の教科書から該当部分を抜粋したものが、資料3になります。

また、道徳だけでなく、国語・社会・音楽・家庭科・総合的な学習の時間等でも関連することを学ぶ機会があり、教科横断的に郷土愛育成を進めています。

例えば、学校により様々ですが、地域の方から昔遊びを学んだり、自分の住んでいる校区を探検したり、校外学習で市の施設を巡ったり、中学生になると、ボランティアで地域の公園の清掃活動等をしております。

なお、資料4の社会科副読本につきましては、小学校3年生・中学校1年生時に配付しているもので、毎年、本市の社会科教員で組織する社会科副読本部会が内容を見直し、作成しているものです。

市長

既に春日井市の教育として、郷土愛の位置付けが学習されていることが、この資料で分かりました。その中でも、資料2 2) 学習指導

要領（道徳）アの小学生に記載のある「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の育成は、とても素晴らしいことだと思います。それから、小学校3・4年生の指導要点に挙げられている「地域での生活が活発になるのに伴い、地域の行事や活動に興味を持ち、積極的に関わろうとする態度を育成し、地域の人々や生活、伝統、文化に親しみ、それを大切にすることを通して、郷土を愛する心を育む」という部分、更に、イの中学生に記載のある「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度」の育成という部分はどちらも素晴らしい思いであって、私も共感するところがあります。

少子化を含め人口の移動により、春日井市でも人口が減少しているという状況を踏まえますと、やはり子どもの時から、ふるさと春日井を愛するという郷土愛を育むことは大切であると感じます。進学や就職、結婚によって転出することはやむを得ないと思いますが、春日井に住み続けたいとか、春日井に住んで良かったとか、また何かあったら春日井に戻ろうとか、そういう思いを小中学生に是非今以上に持っていただきたいと思っています。

河合委員

私は、春日井市出身ではないのですが、地元から出た時にやはり地元について聞かれて話すことが増えたと感じました。地元から出るまでは、そこまで郷土愛について考えたことはありませんでした。

自分の住んでいる市のことを紹介するような状況になった時が、郷土愛のスタート地点ではないかと思います。実際にそういう時期にならないと振り返る機会はなかなかないと思いますが、自分の郷土がどのようなものか分からないままでは悲しいので、子ども達にも小中学校で地元を知るきっかけをたくさん作り、いざ自分が発信する立場になった時に説明できるようになれば理想的だと思います。

子どもに郷土愛について聞いてみたのですが、郷土愛教育という言葉はピンとこなかったみたいです。ただ、春日井市を紹介するために色々調べてプレゼンしたことは印象に残っているようで、そういうことが郷土愛への第一歩になるのではないかと思います。子どもたちが、地元を知ってどう思うかは人それぞれですが、そこからどうしたいかという発想に繋がればいいのではと思います。無関心が一番良くないと思いますので、関心を持ったり、自分が将来こうしていきたいという発想を生むきっかけができれば良いと思います。

浅井委員

私は春日井が地元で、子どもの時は当たり前のように習字に取り組

んでいたが、大きくなってから、習字に取り組んでいたのは小野道風の生誕の地だからということが分かったり、何か分からずに歌っていた校歌の歌詞の意味が、大人になって調べて分かるということがありました。小さい時に教えてもらえたり触れ合える場が教育の中にあり、意味を知った上で校歌を歌ったり習字に取り組んだりできると良いと思いました。

「わたしたちのまち春日井」「わたしたちの春日井」については、それぞれ小学校3年生と中学校1年生に配付しているということで、これらを活用しながら触れられる授業の時間が持てれば良いと思います。また、地名等が掲載されている「郷土誌かすがい」についても、もう少し分かりやすい形で子ども達に配られると良いと思いました。

竹田委員

私は春日井で生まれ育ちましたが、進学するにつれ、春日井から離れていきました。しかし、結婚してどこに住もうか考えた時に、自分の中でやはり春日井だなという思いがありました。それが郷土愛なのかは分かりませんが、何となく自分は春日井が好きだったというのはあったと思います。それはなぜなのかというところを言語化しようとする、やはり郷土愛を育むための教育は大事であると思います。

他方で、旅行等で愛知県から離れた場所で人に会って、どこから来たか聞かれると、「愛知県春日井市」と言っても分からないだろうなと思い、「名古屋」と言ってしまう。

名古屋のベッドタウンとしか今は説明することができなかつたとしても、郷土について色々学ぶことで、「春日井はこういうものがあって、こういう歴史があって」と説明できて、春日井に1回行ってみたいと相手に言ってもらえるようにするということが春日井市民としての役割と言ったら言い過ぎかもしれませんが、春日井市を外に発信していくことも大事なのではないかと思います。そうすることによって、春日井に1回行ってみようとか、愛知県に引っ越してきてどこに住もうか考えた時に、春日井市というところがあるなという感じで転入者が増えるということもあるかと思います。そのため、郷土愛を育むということを全面的に出して教育の中に取り入れていくことは、非常に大事なことだと思いました。

普通の教育、特に社会科では、国の歴史・地理・世界史等を学んでいくが、その中で春日井はどのような位置付けなのだろうとか、自分の生活しているこの場である、例えば工場や史跡等これはどういうことなのだろうと自分の身の回りのことから全て繋がることによって、自分の受けている教育は暗記だけのつまらないものと思うよりは、地に足のついた理解ができるということもあると思います。これは非常に

大切なことだと思いますし、春日井独自の発展、春日井市に住んでいる方々の成長にも繋がっていくということになりますので、非常に良いことだと思います。

向委員

春日井市の歴史については、しっかり教育されていると感じました。あとは、各家庭で、どのような縁があつてこの春日井市に暮らすようになって、その暮らしをどのように努力して守ってきたのかということ自分の親や祖父母に聞く、そういう個人史をしっかりと聞くことで、春日井市の歴史等が今の自分とかけ離れた遠いものじゃなく非常に身近なものとして感じられ、愛着が持てるのではないかと思います。

私は春日井出身です。親は春日井ではありませんが、氏子の会や伝統的な行事がある地域で育ったので、そういうものも身近に感じましたけれども、新興住宅地で育った人は、そういった伝統的なお祭り等はなかったそうです。そういう地域では、親世代の人達が新しい子ども会のお祭りを作る等、そこでの子ども時代の生活を豊かにしようという努力をされていたと思います。

子ども時代の良い思い出を皆それぞれ持って、この春日井に住んでいますので、先人の努力も祖父母など、より身近な人の努力を踏まえて教育できると良いと思います。

教育長

自分も春日井生まれ春日井育ちで、子どもの頃のことを思い出してみると、本当に自分の行動範囲ぐらいの春日井のことしか知らずにとずっと育ってきました。春日井のことをよく知るようになったのはいつかなと思うと、教員になって子どもに教えなければならなくなった時です。春日井ってこういうとこなんだな、これを1つずつ教えていく必要があるんだなということを思ったので、小さい頃に春日井を自覚した覚えがありません。なぜかと言うと、外に出なかったことが大きな原因だと思います。

小学生の交流学習を行っていますが、子ども達は訪問先の男鹿市のことを知ろうとした時に、春日井市について振り返ってみて、春日井市のことを一生懸命調べます。そうすることで、男鹿市に行つて訪問活動ができます。また、夏休みに小学生が市長と語る会がありますが、今年度の子供達は自分達の身の回りにあるものを良くしていこうという発想の中で、自分の周りにある公園について調べたりしました。こういう機会がなければ、調べよう・知ろうということには至らなかったのではないかと思います。やはり外のことを知ることによって、初めて自分の身近なことを考える機会になるのではないか

と思います。

小学生の交流学習や市長と語る会は、子ども達にとって大きな財産になっていって、子ども達が外に行った時に、春日井はこういうところだよと言いつけていけることになるので、大事なことだと思いました。

河合委員

「わたしたちの春日井」は、市のことが色々書いてありすごいと思ったのですが、これは市のホームページ等で見えることはできますか。大人が見ても参考になりますし、特に転入された方にとっては便利な情報だと思いました。歴史的なことも現在の状況も載っているので、生徒だけではなく保護者等広域に活用できると、親世代も振り返りができますし、子ども達と話すきっかけになったり、知らなかった春日井を知ることができるのではないかと思います。

市長

春日井市の沿革はホームページに掲載されていますが、この副読本と同じ内容は掲載されておりません。

河合委員

春日井市に住んでいても、自分が住んでいる地域や生活で移動する範囲以外にあまり知るきっかけがなかったので、こういった本が図書館にもあると良いと思います。

向委員

高蔵寺ニュータウンは、名古屋が都市化して人口が増える時に、どんだん南に人口が増えたけれども、伊勢湾台風で大変な被害があったので、水害のない丘の上のニュータウンを計画して作ったという話ですよね。そういう色々な経緯があって、この春日井という市ができているということを教育すれば良いと思います。春日井には郷土史を研究されている方々がいますので、そういう方々を総合学習にお招きするなどして、話を聞かせていただければ良いと思います。そうすることで、春日井市内の身近な大人たちが教育にも参加して、子ども達にとっても豊かな経験になるのでないかと思います。

イ 郷土愛を育むための春日井市独自の教育について

学校教育課長

本市は「書のまち春日井」という特色を生かし、文部科学省の教育課程特例校制度を活用して、小学校で特別教育課程として、書道科を編成・実施しています。書道科は小学校1年生で年間34時限、小学校2年生から6年生は年間35時限実施しています。具体的には、三蹟の一人である小野道風の生誕の地として伝わっていることや、全国的に

も数少ない書専門の美術館である小野道風記念館を有していること、更に、小野小学校では、県下児童生徒席上揮毫大会が、昭和11年から戦時中も途切れることなく開催される等、書道の拠点として普及発展に力を入れていることを学んでおります。また、文字を書く機会が少なくなった昨今、書道科を通して、一字に真剣に向き合い書くという具体的な活動は、「書のまち春日井」を身近に感じる良い機会となっています。更に、自分の目標や思いを文字に込め、千代紙・和紙・提灯等と組み合わせた作品作りなど、各校で工夫を凝らして日本文化を味わいながら表現力を向上させることができいております。児童の表現力の向上、心の教育の充実といった教育課題に対応した活動となっています。

市長

「書道科」というカリキュラムが独自であるという説明がありました。ここは「書のまち春日井」で小野道風生誕伝承地でありますので、そういった意味で書道を通してのPRというのは、春日井市の個性であると思っています。子ども達が小学校1年生の時から書に触れ合うというのは、「春日井市らしさ」だと思っています。しかし、それだけでは郷土愛は育まれないと思っていますので、独自の教育は書道科だけでいいのか、それとも書道科以外にもあった方がいいのかというのを、改めて今日のテーマとしたいと思います。

地名というのはそこに歴史的な意味や春日井市の成り立ちも含まれていますし、まず自分が住む地域や春日井市という市名のゆかりを知ってもらうのも1つの方法です。自分が住んでいる町は、昔は春日井市ではなく〇〇町だったということや、味美の二子山古墳は、どういう人が作り、そこにある埴輪はどこで焼かれ、どういう経路で来たのか、そういうことを知り、まずは自分が住む地域から愛着を持ってもらう。それが、ひいては春日井市への愛着に繋がると思いますので、そういったところで独自の教育というものが展開されていくと良いと私は思っています。

河合委員

書道科教育はそのまま続けてもらって良いかと思えます。

書道以外では、埴輪作りとか郷土の伝統的なものを学校が生徒達と一緒にやるということが、一番身近で、実感が湧きながら郷土愛に繋がる特別な授業になるのではないかと思います。

春日井市の書道科では、綺麗に書くというのが主流でしょうか。他県の書道科の教育では、紙いっぱい力強くダイナミックに書くことが良しとされているところもあります。一点集中的に、綺麗に落ち着かせながら書くという書道もいいのですが、ダイナミックに自由に書

く書道の教育もあっても良いかと思えます。書道アートのなものもありますし、高校の書道部を見ると結構大きく書いています。高学年になると紙に大きく書きましようという体験学習的な授業がありますが、それまで綺麗に書くという意識が定着しているので、皆小さめに細々と書いており、ダイナミックに書くことに少し抵抗があるように感じます。個人の性格にもよりますが、同じ書道でもいくつか種類があり、その広がりをもっと示すことができると、子ども達は書道について、もっとチャレンジして自信を持ってくれるのではないかと思います。

浅井委員

小学校の時から地域を探索し、その土地を知り、地名の成り立ちをグループワークで話し合う場を設けて、それぞれ調べたことを発表し合って、より地元愛を育むことができると良いと思えます。

牛山町の間内には浅井長政像がありますが、自分が高校生の際に子孫の人が建て、今は町内が管理しています。縮小版が我が家にもあり、なぜあるのかと思いましたが、たまたま名前が一緒だったことからいただいた物だそうです。しかし、それがきっかけで、高校生の時に、お寺の過去帳で第何代目なのか色々調べたりしました。探索することから関心が広がっていくと良いと思えます。

また、書道科に関しては、続けてもらえれば良いと思えます。

竹田委員

書道に関しては、春日井市の文化であり、日本の文化でもあると思えます。

仕事や結婚式等で、毛筆で何か書く時におぼつかないと非常に恥ずかしい思いをすることもあります。毛筆で縦書きで自分の名前を書くことは、非常に大事なことであり、書道はやっていくべきだと思っています。

「わたしたちの春日井」の12ページに、篠木荘が出てきます。これは篠木にあった荘園で、鎌倉時代だと鎌倉幕府と繋がりが深い、鎌倉の円覚寺が地頭だったというようなことが書かれています。元々春日井市の篠木はどういう所だったのかということ、平安時代の荘園のことや鎌倉時代の地頭のこと、また、そもそも地頭とは何かというところを発展させて、日本の歴史に繋げることができると良いと思えます。春日井全部を網羅することはできないと思えますが、地元やゆかりをきっかけにして教育に繋げていくという形にすると、同じ社会の時間でもものすごく地に足のついた教育になるのではないのでしょうか。

国で定められた教育の部分もあり、それ以上何かを増やすことによ

って他を疎かにするという事はできないと思いますが、内々神社に日本武尊が祀られている話等、日本の歴史に繋げていけるところもありますので、新しいことを行うのではなく、教育の仕方を工夫すると良いのではないかと思います。

向委員

書道の教育については、本当に意義が深いと思います。資料2 イ効果の中に「日本文化を味わいながら表現力を向上させる」という文言がありますが、書道は認知機能の強化にも非常に良く、姿勢を保つだけでも集中力が必要になり、体幹の機能も鍛えられますし、なおかつ、こうして工芸と組み合わせて提灯を作る等、工程を踏まえて物を作っていく作業では遂行機能を鍛えることができます。手を使って何かを創り出すという教育に繋げていくことはすごく良いと思いました。

「書のまち春日井」ということで様々なイベントや地域での子ども支援等に使う取り組みがありますので、書道がまちづくりにも繋がっているということをごく少しでも話していただくと、書単体の教育ではなく、郷土愛全体の教育に繋がっているということが分かるので良いのではないかと思います。

私は中国人の留学生を指導していますが、中国人の留学生とは漢字でとても通じている部分があります。書道は日本の文化ですが、漢字の国との繋がりとしても大事なものなので、漢字を以て書道に親しむという文化は、引き続き教育していただきたいと思います。

地名の教育については、「わたしたちの春日井」のような教材を使った教育の中で、春日井市全体の知識を伝えることも大事ですが、少し深めて学習する時に、自分の住んでいる学区の歴史を地名を通して学ぶと良いと思いました。カリキュラム上新しいものを作ろうとすると、すごく時間がかかってしまうので、この学区ではこういうことを深めると良いというようなヒントを提供するなど、今の教育の中に新しく入れ込んでいく工夫ができると良いと思います。

教育長

先週、春日井市がICTで先進的な独自の取り組みをしているということで、ICT教育アワード協議会長賞という立派な賞をいただきました。ただ、これが郷土愛を育むことに繋がるかどうかは疑問なところですね。やはり郷土愛を育むという点では、春日井市が取り組んでいる書道科は全国に発信できる大事な取り組みですので、今後も積極的に取り組んでいく必要があると思います。

小学校には書家の方もたくさん来ていただいているので、大きく書く・大きな紙に書く・大きい筆で書くということもやっています。こ

れは、今後も続けていくべきことだと思います。

それ以外では、白山小学校の埴輪作りや山王小学校の子ども達が行う地域のお祭り等、学校単位で郷土愛を育むための独自の取り組みが行われています。これらは他の学校でできるかというところではありません。それぞれの学校が自分の地域を見直すことによって、独自の取り組みを行い、そこに地域の方やお年寄りを巻き込んで、子ども達を育てるといったようなことが今後進められると良いと思います。

また、「わたしたちの春日井」は、春日井はすごいと思える内容ではないかと思うので、各家庭に1冊あると良いと思いました。

市長

「わたしたちの春日井」が大好評だと私も感じました。春日井の歴史や、改めて読むところだったんだと思うことがたくさん盛り込まれています。学校の先生方は、今これを子ども達に教えていただいているのですが、郷土愛は深さや幅など計り知れないところがありますので、教育の仕方に工夫が必要であると私は感じ受けました。

向委員

「わたしたちの春日井」は、定期的に更新されると思いますが、古い歴史だけが郷土愛ではないので、春日井のあゆみの部分は現代のところまで加えていくと良いと思いました。歴代の市長や多くの方が努力して様々な工場誘致をしたり、春日井の性格は少しずつ変わってきているところもあります。また、教育の面でもICT教育ということで、子どもたちが自分の市について誇りに思えるような資料も必要だと思います。古い歴史とICTを組み合わせ、歴史ある文化を大事に持ちつつ、それを現代の先進的な技術で発信している新しい生き生きとした町であるということをアピールすると良いと思います。

市長

今回のテーマは、大きなものですから、この場だけで結論が出るものではありませんが、今日の皆様方の意見を参考にさせていただきながら、何か提案をできればと思います。

上記のとおり、議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、市長及び指定された議事録署名人が署名する。

令和6年3月15日

市長 石黒 直樹

署名人 水田 博和